

東日本大震災

私たちができること

Proud!
Japan

東日本大震災の復興を支援しよう

3月11日、三陸沖で発生した

東北地方太平洋沖地震は、

未曾有の大災害・東日本大震災を引き起こしました。

いまだ、厳しい避難生活が続く被災地。

震災の影響に揺れる日本経済。

伊豆の国市に住む私たちは、

今、何をすべきでしょうか。

震源地
2011年3月11日14:46
マグニチュード9.0

マグニチュード9.0
最大震度7

死者・行方不明者
合わせて2万7千人以上



私の目で見てきた被災地（市民レポート）

Proud!
Japan
被災地に広がるのは
瓦礫と泥と道路のみ

私の派遣された宮古市でも、特に海沿いの地区の、津波による被害は甚大でした。そこに広がるのは、瓦礫と泥と道路のみ。もとの町並みを知らない私には、「ここは住宅街だった」と説明されても想像がつかないほどでした。それでも救いたかったのは、私が派遣された頃には、現地の人たちがいる程度明るさを取り戻していたこと。「くよくよしても仕方ない」「がんばろう」という前向きな思いが伝わってきました。

Proud!
Japan
地震発生以降
洗濯もできない状況



東静電気株式会社
主任 須田 雅太郎さん
4月6日から、宮城県多賀城市の避難所にトラックで業務用洗濯機を持ちこみ、衛生環境改善活動を展開。



伊豆の国市社会福祉協議会
(市地域安全課に出向中)
矢田 昌秀さん

現地の人たちは、津波で家も洗濯機も壊され、衣類や寝具の洗濯が全くできない状況にあります。洗濯機メーカーである私たちの会社が選んだ支援が、被災地での洗濯サービスでした。多賀城市にある3つの避難所には千人以上の避難者がいます。が、機械をフル稼働して、一日25家族分の洗濯がやっと。それでもみんな「ありがたい」と言ってくれます。期間を延長してでも、避難所全員の衣類を洗濯してあげたいですね。

Proud!
Japan
被災地で炊き出し、
子どもたちに笑顔を



(写真左から) 内田 夏樹さん(中)、白井 忠志さん(古奈)、河合 孝彦さん(南條)
4月6日、福島県いわき市、岩手県石巻市などの避難所で炊き出しを実施。4月14日～17日にはNPO法人グラウンドワーク三島と協同で被災地の子どもを伊豆長岡温泉に招待。

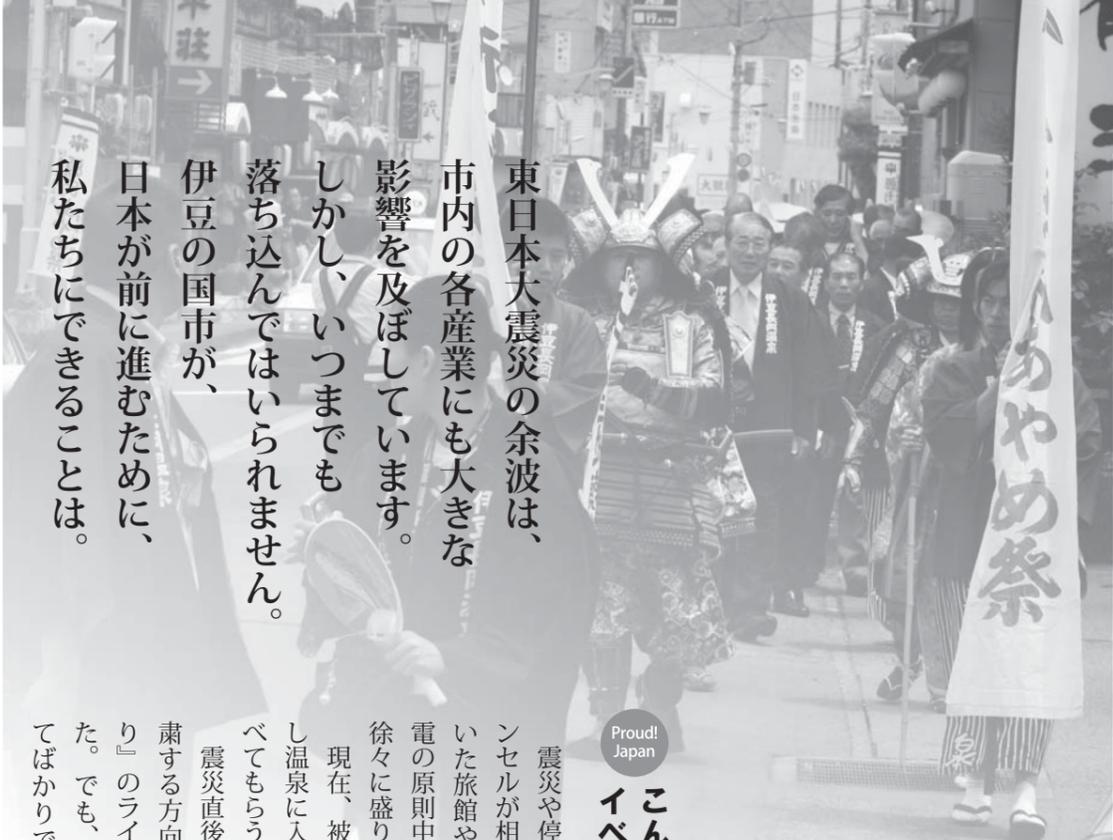
被災地に着いたときは、あまりにひどい被害状況に言葉が出ませんでした。東海地震を抱える私たちにも決して他人事ではありません。避難所では、カレーなどあたたかい食べ物や炊き出ししたり、一緒に遊んで子どもたちを笑顔にできました。子どもの笑顔は、被災地の大人も明るく元気にしてくれ、と信じています。しかし、私たちの住む地域と被災地との意識のギャップは大きい。これからは、現地を見た人間だからこそできる支援活動を続けていきたいと思っています。

伊豆の国市の被災地支援状況
3/15 静岡県を通じて被災地に災害用毛布を供出
3/17 宮城県多賀城市*への救援物資(毛布・食料等)提供
3/28 市役所安全対策課(現・地域安全課)内に災害支援班を増設
4/1 雇用促進住宅・市営住宅・民間住宅計14戸を被災者受入に提供
4/5 宮城県多賀城市への2回目の救援物資(長靴・ブルーシート・ヒノキ新築(株)提供薬用クリーン等)提供
4/6 宮城県多賀城市の避難所に東静電気(株)が業務用洗濯機を持ち込み衛生環境改善活動を実施
4/8 市職員(事務職・保健師)計4人を岩手県遠野市、岩手県大槌町、宮城県仙台市若林区他に派遣
4/14 宮城県多賀城市災害対策本部を伊豆の国市長が慰問
問合せ 地域安全課災害支援班 ☎055(948)1482

*宮城県多賀城市は本市と同じく『全国市町村あやめサミット連絡協議会』に加盟しており、災害時の相互応援協定を締結しています。

私たちに二度も来るはずよ

復興に向かって前に進むために（市内各産業界インタビュー）



Proud! Japan

こんなときこそ イベントに参加を！

震災や停電の影響で予約のキャンセルが相次ぎ、大打撃を受けていた旅館や観光施設も、『計画停電の原則中止』が決まってからは、徐々に盛り返しつつあります。現在、被災地の皆さんをご招待し温泉に入っておいしいものを食べてもらうことも企画中です。震災直後は、観光イベントを自粛する方向で、『狩野川さくら祭り』のライトアップも中止しました。でも、いつまでも下を向いてばかりではいけないと思いま



伊豆の国市観光協会
会長 安田 昌代さん

古奈温泉の老舗旅館『梁山やすた』の女将。平成19年度より現在まで、市観光協会会長を務める。

す。イベントは市民のためだけでなく、観光客を誘致するためのものでもあります。こんなときこそ自粛せずに観光イベントを開催して、地域経済を活性化すべきです。6月の『ホテルまつりin伊豆の国』、そして7月の『源氏あやめ祭』も、例年通りの開催が決定しました。もちろん、電力をあまり使わずに開催する工夫をしつつ、すべてのイベントで震災の復興支援を取り入れていきます。皆さんも、ぜひご家族でイベントに参加してください。私たちが元気になることが、被災地の復興支援につながるのです。



静岡県飲食生活衛生同業組合
伊豆長岡支部長 伊豆長岡 一さん

長岡の飲食店『SAKE・HOUSE しばらく』のマスター。同組合の県事業委員長も務める。

Proud! Japan

今こそ外にくり出して『地飲地食』を！

不況の影響でお客さんが忘年会や新年会を控え、また2次会もなしという矢先の、震災や停電による自粛以降、市内のあらゆる飲食店で予約キャンセルが続いています。私も長いこと飲食業に従事していますが、このような経験は想定外です…。でも、いつまでも落ち込んではいられません。店の看板や照明を控えて節電しつつも、「自粛ムードを吹き飛ばして、みんなでがんばろう！」と組合でも言い合っています。皆さんも、震災以降、自粛していた送別会や歓迎会を、改めて開いてください。今こそ家から出て、地元ちかまちの飲食店にくり出しましょう。そして地産地消ちかまちしょうならぬ『地飲地食』で経済を活性化させましょう。

このような状況の中、皆さまにはご家庭での節電をはじめ、各産業界における絶大なるご協力をいただいております。心よりお礼申し上げます。皆さま一人ひとりのご協力が大きな力となり電気のご使用量を抑えることができ、電力の需給バランスは改善をみせております。しかしながら、今後も突発的な気象の変化などにより、電気のご使用が急増した場合には、電力需給が逼迫する可能性があり、電力消費がピークとなる夏場にはさらに厳しい状況が予想されます。皆さまには引き続きご不便をおかけいたしますが、今後も電気のご使用をお控えいただき、より一層の節電にご協力をお願い申し上げます。

順天堂大学医学部附属静岡病院
救命救急センター長
津羅 雅彦さん



同病院医師。震災当日から災害派遣医療チーム（DMAT）を率い、被災地の病院で救急活動を展開。

仲間との信頼関係が 災害時に生きてくる！

DMATは、15年前の阪神・淡路大震災の教訓から国が組織した災害派遣医療チーム。地震発生当日の夜当病院からも医師・看護師らのDMATチームが現地へ出発しました。到着した被災地（茨城県北部）の病院では、電気・水道・ガス・電話・インターネット回線など全てのラインが停止し、外部からの情報が全く入らない中で、入院患者の転院・搬送作業に取り組みました。その状況でも円滑に作業できたのは、日ごろの訓練等で全国のDMATチームや本部との信頼関係があり、助け合うことができたからです。皆さんにとっては自治会がそれ。日ごろから近所の人たちと親交を深めて信頼関係を築けば、東海地震が起きても助け合えると思います。

Proud! Japan

それぞれの得意分野で 復興支援をしよう！

初めは、義援金を出すという形の支援も考えましたが、被災地の建設業者が瓦礫の撤去に難航している状況を見て、建設業者だからこそできる支援として、義援金に予定していたお金を資本金に、被災地へ実務職員じつむくしんの派遣をする予定です。

具体的には、市が災害時の相互応援協定を結んでいる宮城県多賀城市に対し、現場監督と重機オペレーター10人1組を、1週間交代で数カ月間継続して派遣します。被災地では、今後必要となってくる生活基盤整備や災害復旧工事（測量や設計、工事施工・監理など）のお手伝いをします。市内の建設関連業者には、派遣への支援金拠出を呼びかけました。皆さんも、自分の得意分野での被災地支援も考えてみてはいかがでしょうか。

伊豆の国市建設業協会
会長
土屋 龍太郎さん



土屋建設株式会社代表取締役。市商工会副会長。平成19年から市建設業協会の会長も務める。

具体的な節電方法について

エアコンの使用は、極力控える。	冷蔵庫の設定温度を強から中に。
必要な照明以外は、消灯を。	プラグはコンセントから抜く。
温水洗浄便座のふたを閉める。	電気機器は省エネモードに。

一人ひとりの取り組みが、大きな節電効果につながります。引き続き節電へのご協力をお願い申し上げます。

今こそ、復興支援を



まずは、今回の震災で犠牲となられた皆様に謹んで哀悼の意を表し、被災地の皆様にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

この未曾有の大災害は、多くの意味で教訓を残しました。三陸地方では昔から地震や津波の被害がありました。が、今回は福島県や茨城県まで及んでいます。私たちが過去の歴史に学ぶだけでなく、それ以上の被害も想定して、東海・東南海地震に備えなくてはなりません。

「備えあれば憂いなし」。自然災害を防ぐことは難しくとも、被害を最小限に抑えることはできます。日ごろから、地震への備えとともに、自治会などの近所づきあいも大切にしてください。いざという

ときは、みんなで助け合わなくてはならないのです。そして、今回のような広域的大災害が発生したときには、どのように日本中が助け合って、次の時代に向けた地域づくりをしていけるのかが重要です。

先日、災害時の相互応援協定を結ぶ宮城県多賀城市まで行ってきました。今私たちが多賀城市をはじめとする被災地の皆様を支援することも、自分たちが東海地震のときに全国から支援していただくために、やっておかななくてはならない責務なのです。

復興への道は、まだ始まったばかりです。被災地の皆様を、市民一丸となって支援していきましょう。

伊豆の国市は、被災地の復興を支援します。

平成23年5月1日
伊豆の国市長 望月 良和

Proud!
Japan

これらも、私たちにできる支援

被災地支援ボランティア

社会福祉協議会職員とともに岩手県山田町に入り、支援活動（仕分け作業、家屋に残る泥や瓦礫撤去作業等）にあたるボランティアを募集します。

活動期間と申込み締切

①活動期間：5月12日（木）～19日（木）
申込み締切：5月2日（月）13時

②活動期間：5月17日（火）～24日（火）
申込み締切：5月9日（月）13時

③活動期間：5月22日（日）～29日（日）
申込み締切：5月11日（水）13時

定員 各30人（申し込み多数の場合書類選考）
その他 体育館等で寝袋での就寝となります。

現在、入浴・洗濯はできません。

問合せ 静岡県社会福祉協議会

☎054(254)5224

被災地への義援金

受付場所

・市役所各庁舎（伊豆長岡・葦山・大仁）

・市社会福祉協議会各支所（伊豆長岡・葦山・大仁）

受付期間 9月30日（金）まで

その他

・募金箱への募金だけでなく、大口の義援金の寄託も各所で受け付けています。

領収書が必要な人はお申し出ください。

・郵便振替口座による寄託もできます。

詳しくはお問い合わせください。

問合せ 伊豆の国市社会福祉協議会

☎055(949)5818

